

令和7年11月14日 放課後等デイサービスかなで 職員研修③

放課後等デイサービスかなで 職員研修③

福岡市南区鶴田にある「放課後等デイサービスかなで」さんの職員研修の講師をさせて頂きました。

「放課後等デイサービスかなで」さんは、「障がいを持つ子ども達の役に立ちたい、そして少しでもそのご家族の助けとなり、子ども達だけでなく、お父さん、お母さん、きょうだい児のご家庭での笑顔が増えるような支援をしたい」との思いのもと、「一緒に考え、一緒になやみ、一緒にできる力を育てる支援」を日々行っていっています。

5回シリーズで職員研修を担当させて頂いております。

第3回目の今回は、

「子どもの意欲を伸ばす大事な視点」について講義とグループワークを行いました。

講義の内容は、

①発達障がいへの誤解

②常識とは？

③ほめ上手になる為のポイント

④まとめ

以上の4点です。

※途中、「否定的な声かけを肯定形に変える」「子どもの特徴をリフレーミングする【うるさい】→【元気！】など」の2つのワークも行いました。）

発達障がいについて誤解を抱いたまま、または、大人側が考える常識に当てはめたまま子どもと関わると、「何で出来ないの？」「何度言ったら分かるの？」「見れば分かるでしょ！」などと全ての原因は子ども側にある事になり、かける言葉は否定的なものとなります。否定的な関わりから相手の意図を察して、自分への叱咤激励として前向きなものに自ら変換できる子は良いですが、発達特性を持つ多くの子は、否定された事だけが突き刺さり、「私はダメな子だ。」「どうせ私は何をしても出来ない子だ。」「私のことが嫌いなんだ。」などと落ち込み、課題が改善するどころか、反対に失敗や反抗を繰り返し結果となります。

ここで1番の注意点は、大人側が子どものためと思って否定的な関わりを続けている事です。悪態や攻撃が目的ではなく、あくまで子どものために行動している点にあります。

そこで今回の研修では、まず、発達障がいへの誤解や暗黙の了解として受け継がれている常識や当たり前を分かりやすくお伝えし、そのままでは効果的な支援には繋がらない事を踏まえ、ワークを通して、子どもの立場に立った肯定的な視点や関わり方を見つけていきました！

子どもを変えたいなら、まずは大人が変わる！これが、発達特性を持つ方への支援の最重要ポイントです！

今回の研修の中でも「かなで」の職員の皆さん全員が、子どもたちの為、そして日々の支援をより良いものにする為に、楽しく真剣に研修に参加していました！

